

01

札幌市立高校教育改革方針 の概要と協議の進め方

札幌市立高校教育改革方針の概要（現状）

1 方針の策定

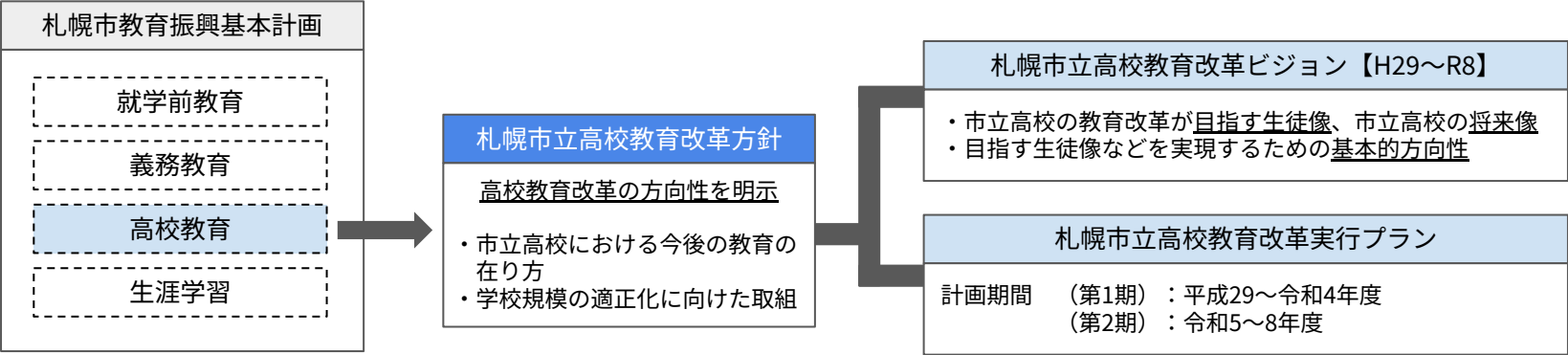
高校を取り巻く状況を踏まえ、市立高校の教育改革の目標や目指していく方向性を明らかにし、市立高校教育改革に関する施策を体系的に進めていくことを目指すとともに、少子化に伴う高校進学者数の減少期における市立高校の在り方を示すため、平成29年（2017年）に「札幌市立高校教育改革方針」を策定。

2 方針の位置づけ

札幌市の教育に関する施策を総合的に示す「札幌市教育振興基本計画」（H26策定）のうち、市立高校における教育改革の方向性を具体的に示すもので、札幌市教育委員会所管の市立高校（7校）及び中等教育学校（1校）が対象。

3 方針の構成及び計画期間

方針策定後10年間を見据えた基本理念を示す「札幌市立高校教育改革ビジョン」と、前期・後期で取り組む施策・事業を示す「札幌市立高校教育改革実行プラン（第1期・第2期）」で構成。



札幌市立高校教育改革方針の概要(現状)

札幌市立高校 教育改革ビジョン

平成29年～令和8年の期間、市立高校が「目指す生徒像」や「市立高校の将来像」を実現するため、3つの基本的方向性に沿って、教育改革を実行。

[基本的方向性]

生徒の個性や
能力を伸ばす
質の高い教育の充実

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度や思考力・判断力・表現力、基礎的な知識・技能をバランスよく育成。

生徒の多様なニーズへの対応、個性や優れた能力を伸ばす特色ある教育プログラムを提供。

社会に開かれた 教育活動の推進

地域や企業、大学等との連携
・協働による、社会に開かれ、
社会とつながる学校づくりを推
進。

生徒の主体的な学びや、キャリア形成の促進を図る。

学校の取組を支える 仕組みの構築

学校の広報活動や地域・企業など外部との相互連携を支援する仕組みを構築。

学校の教育力を高め、更なる教育の充実を図る。

目指す生徒像

夢や希望の実現に向かって
主体的に学び、探究する生徒

個性や多様性への寛容さを持ち、
他者と協働し、
新しい価値を創造する生徒

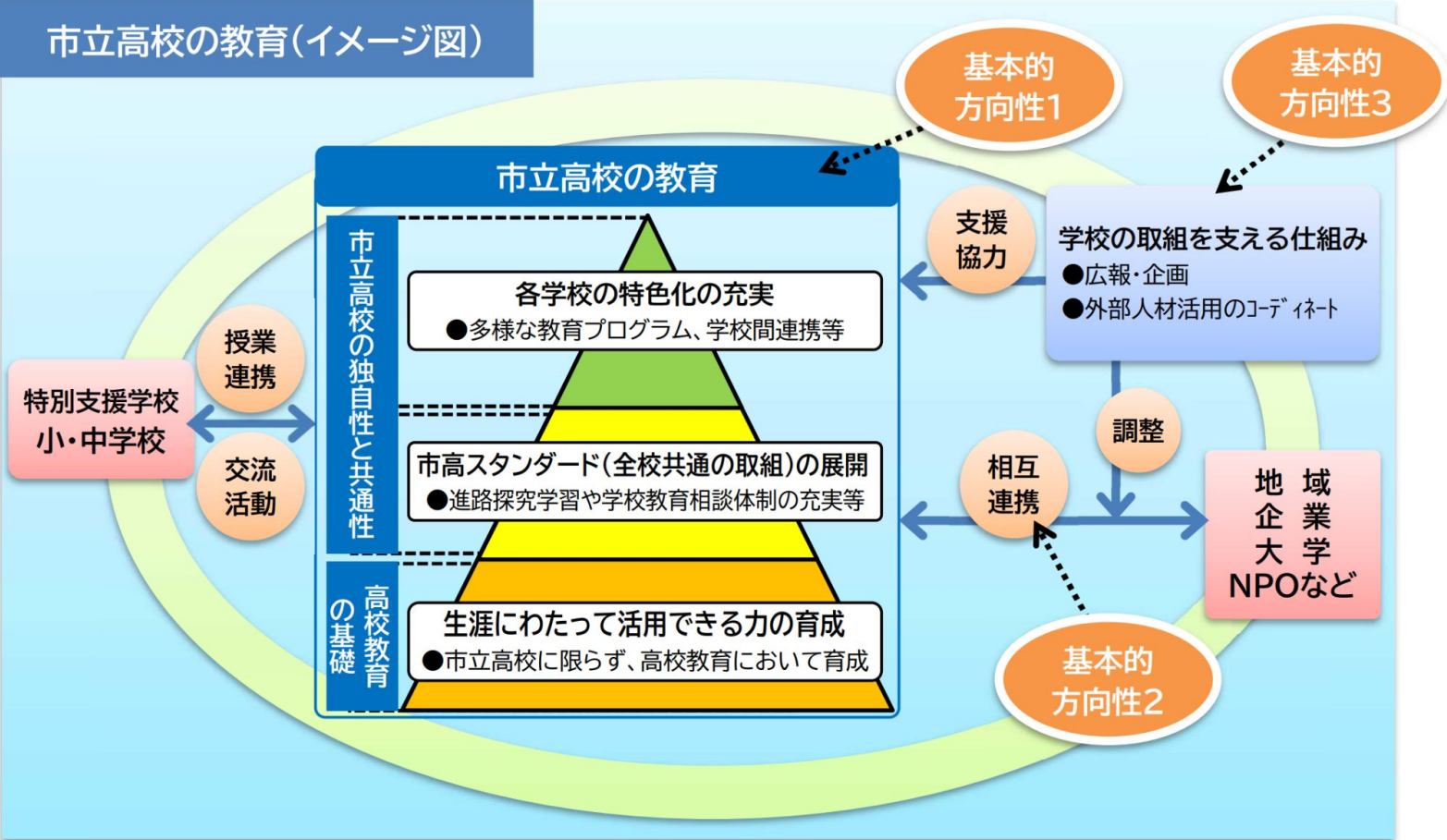
積極的に社会と関わり
貢献する生徒

市立高校の将来像

生徒の主体的で
探究的な学びを促す、
魅力ある学びの場

様々な差異を越えて、
多様な生徒が共に学び、支え合い、
成長することができる学びの場

地域、企業など社会との
関わりを通して成長できる、
社会に開かれた学びの場



札幌市立高校教育改革方針の概要（現状）

特色ある制度や学習活動

生徒それぞれの個性や能力を伸ばし多様な選択ができるように、
各校に特色ある制度や学習活動を導入。

| | | | |
|---|----------------------------------|---------------------------------------|---|
| 旭丘高校 単位制の導入 数理データサイエンス科の開設 | 新川高校 フロンティアエリア制 の導入 | 平岸高校 デザインアートコース の導入 | 清田高校 グローバルコースの導入 単位制の導入 |
| 藻岩高校 単位制の導入 | 啓北商業高校 未来商学科の開設 | 大通高校 単位制・三部制・定時制高校 として開校 | 開成中等教育学校 国際バカロレアを活用した 中高一貫教育校として開校 |

《入試出願倍率（再出願後）の推移》

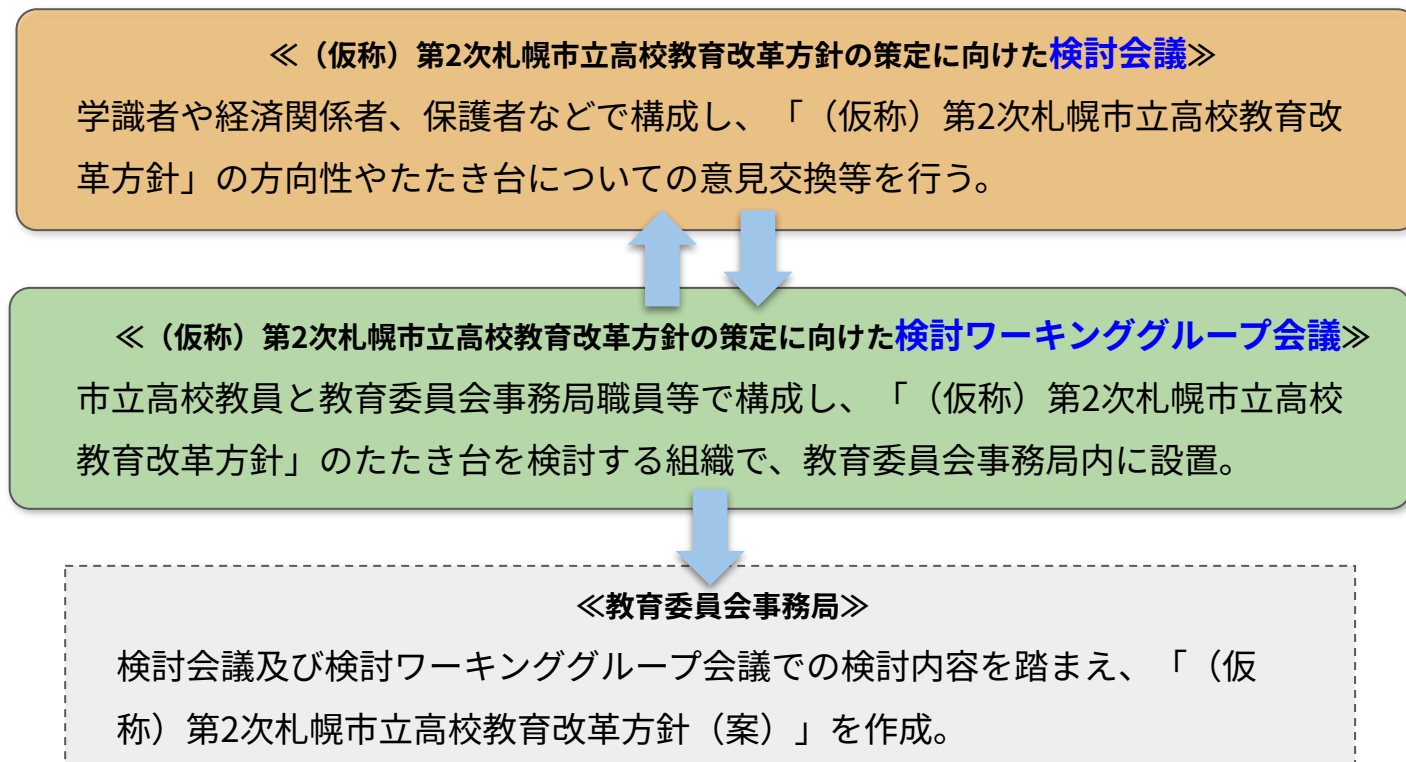
| 学校名 | 学科・コース名 | R5倍率 | R6倍率 | R7倍率 | 学校名 | 学科・コース名 | R5倍率 | R6倍率 | R7倍率 |
|-----|---------------|------|------|------|------|--------------|------|------|------|
| 旭丘 | 普通科 | 1.6 | 1.5 | 1.5 | 啓北商業 | 未来商学科 | 1.1 | 1.5 | 1.1 |
| | 数理DS科 | 0.8 | 1.0 | 0.8 | 藻岩 | 普通科 | 1.2 | 1.3 | 1.3 |
| 新川 | 普通科 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 大通 | 普通科・午前 | 1.4 | 1.5 | 1.4 |
| 平岸 | 普通科 | 1.7 | 1.7 | 1.8 | | 普通科・午後 | 1.6 | 1.6 | 1.4 |
| | 普通科デザインアートコース | 1.8 | 1.8 | 1.5 | | 普通科・夜間 | 1.5 | 1.1 | 0.5 |
| 清田 | 普通科 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 開成中等 | コンピュータサイエンス科 | 3.5 | 3.1 | 3.4 |
| | 普通科グローバルコース | 1.1 | 1.6 | 1.9 | | | | | |

次期方針の策定に向けた協議の進め方

1 検討体制（案）

学識者や経済関係者、保護者、学校関係者等で組織する「**検討会議**」と、市立高校教員と教育委員会事務局職員等で組織する「**検討ワーキンググループ会議**」を設置。

前回の方針策定時と同様に、「本検討会議で出た意見をワーキンググループ会議で検討する」、「ワーキンググループ会議で出た意見を本検討会議で検討する」という繰り返りで協議を進める。



2 「（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針」の構成（案）

○教育改革ビジョン

今後10年間の市立高校における教育改革の方向性や基本理念を示す。

【対象期間】 令和9年度～令和18年度

○教育改革実行プラン

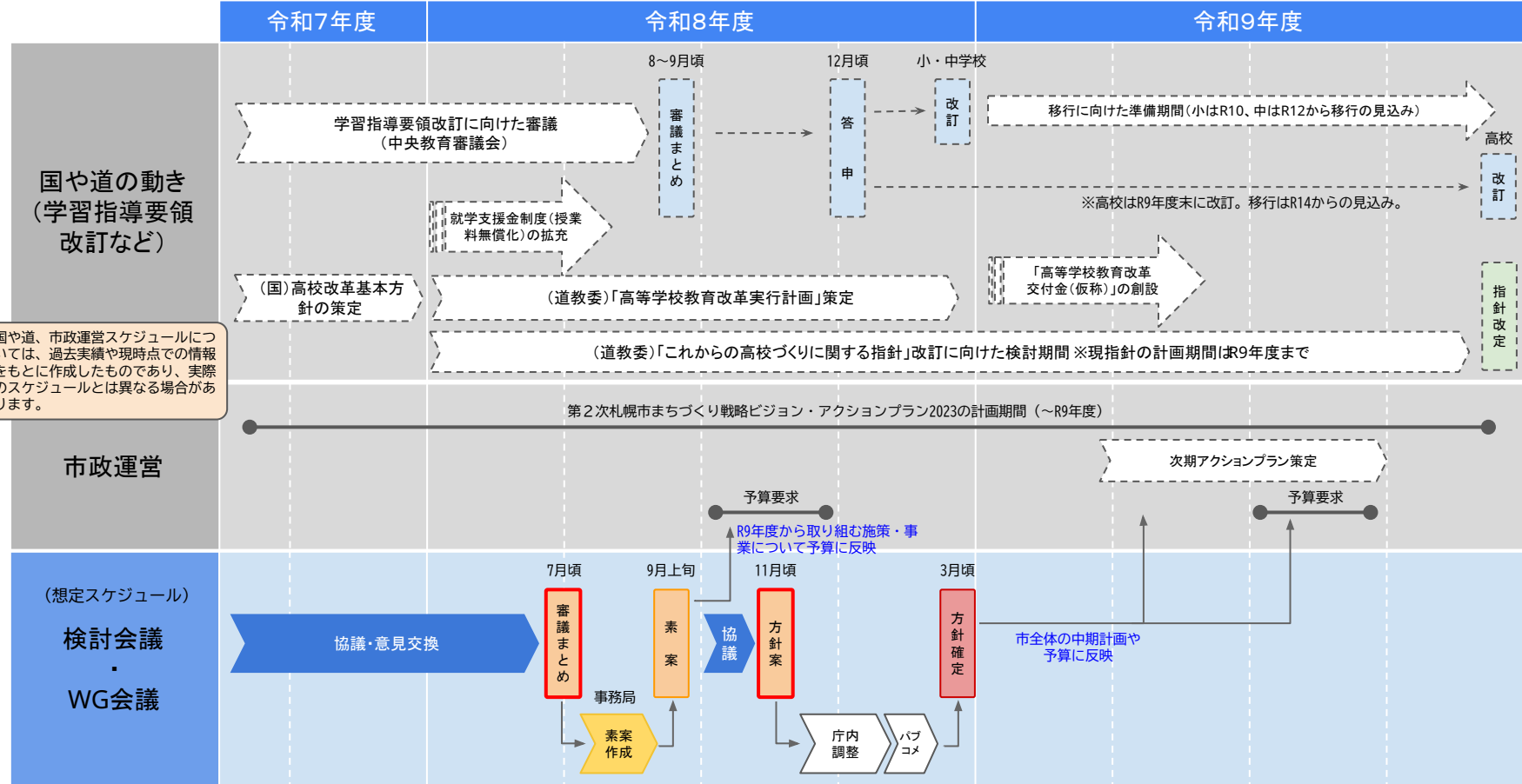
ビジョンの実現に向けて、概ね5年間で取り組む具体的な施策や事業を示す。

【対象期間】 ①第1期：令和9年度～令和13年度

②第2期：令和14年度～令和18年度 ←令和12～13年度頃を目処に策定

次期方針の策定に向けた協議の進め方

3 策定スケジュール（A案） ※H29の策定時と同様、計画期間開始の前年度までに策定する場合



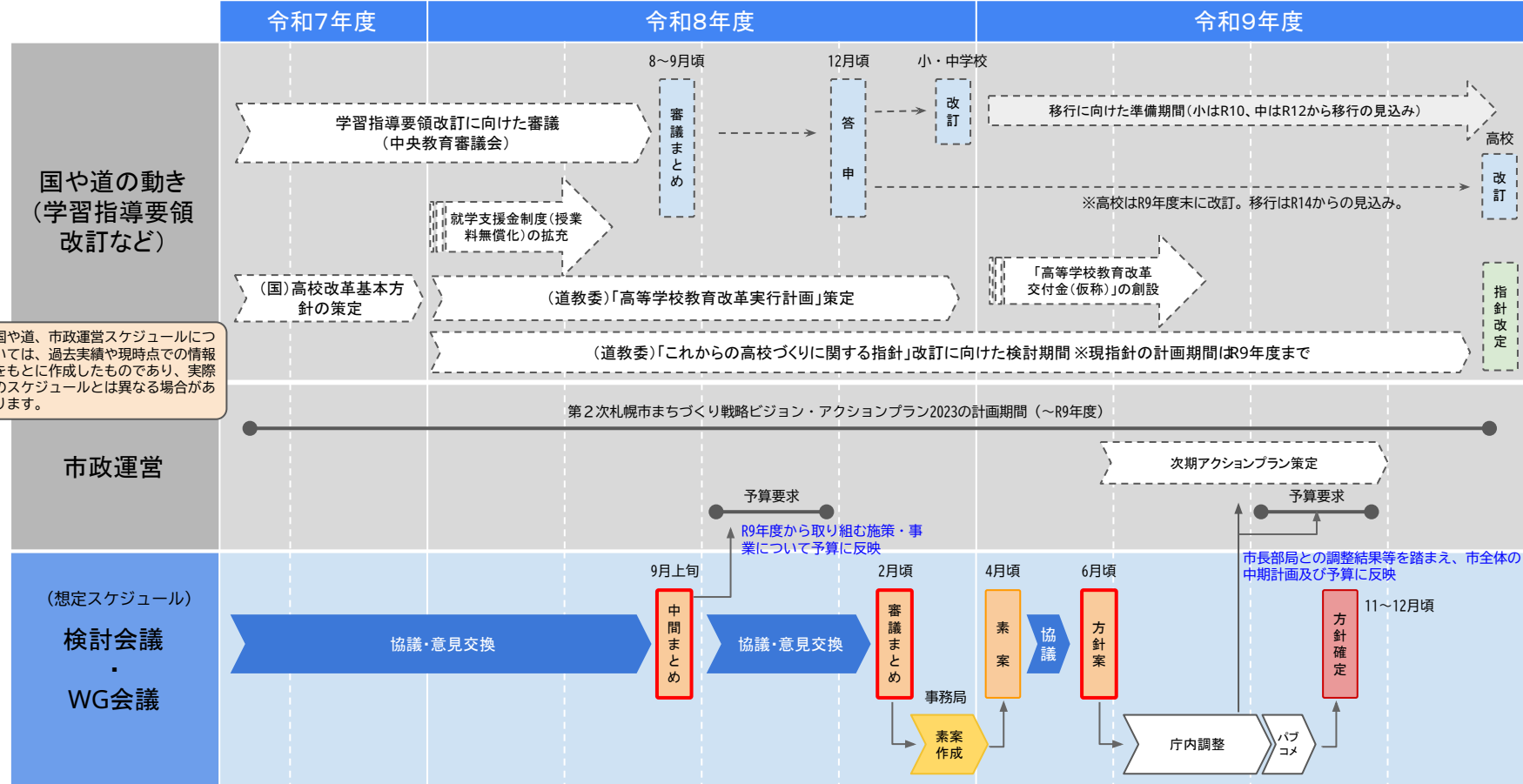
○R8年度中の次期方針策定を目指す場合、R8年7月頃に「審議まとめ」、11月頃に「方針案」を整理する必要がある。



高校改革に向けた国の動きが活発化し、学習指導要領改訂に向けた審議も進む中、それらの内容を踏まえた検討や協議がしにくい。

次期方針の策定に向けた協議の進め方

3 策定スケジュール（B案） ※国や道などの動向を踏まえながら検討を進める場合



- R8年9月頃に「中間まとめ」、R9年2月頃に「審議まとめ」を整理し、次期改革方針の目指す方向性を示す。
- 国の動向も注視しながら具体的な施策・事業等について協議・検討を継続。次期アクションプランとも連動させるためR9.6月頃までに「方針案」の策定を目指す(方針確定は11～12月頃)。

➡ 方針策定がR9年度当初に間に合わないため、当面の間は現方針に沿って施策・事業等を継続する必要。